

柔軟に個別化されたサービスを提供

第17回通常総会を開催



塩野会長

案…2024
年度事業報告
および収支計
算書、正味財
産増減計算
書、貸借対照
表、財産目録
等の会計報告
および監査報
告承認の件／
第2号議案…
会員会費額
(案)承認の

総会に先立ち、挨拶に
立った塩野会長は、公表
された監督指針案に代理
店手数料ポイントが明記
されたことに触れ、「民
間同士の契約に意見する
立場にないという見解を
示していた金融庁だった
が、日本代協の意見が取
り入れられた」と語った。
また、社会環境の変化
やテクノロジーの進化に
よって顧客ニーズが多様
化する中で、保険代理店
は柔軟に、個別化された
サービスを提供する必要
があると指摘。顧客サー
ビスや各種業務、マーケ
ティング等でAIは保険
代理店にとって有益なツ
ールで大きな可能性を秘
めているとし「変化する
社会環境に適応しつつ、

通常総会は第1号議

保険代理店は

未来に残る仕事

埼玉代協

埼玉代協(塩野忠会長)は5月23日、大宮ソニックシティ国際会議室(埼玉県さいたま市)で第17回通常総会を開催した。348会員のうち委任状を含め288会員が出席。4つの議案を審議し、全て可決した。総会後は日本代協の金澤亨事務理事が「金融審WG・第三者検討会を踏まえた今後の代理店のあり方」と題して講演。企業代理店の社長を務めた経験を踏まえながら、代理店目線で業界の動きを語った。

会の決議の主旨に反しない限りその修正を会長に一任する件——の4議案を審議し、全て賛成多数で可決した。

同氏は、保険業法の改正や公表された監督指針、第三者検討会の議論が保険代理店に与える影響を説明。この中で、代理店業務品質に関する評価指針に關して、全ての代理店が「最低限必要な業務品質が確保されているか判定されることになると」と述べ、本当に実行できているかが問われるため、意外とハードルが高い」との見解を示した。

また、企業として経営するために何が必要か同氏は自身の経験を踏まえて見解を披露。「既契約者との関係は大いなる強み。改めて見直してほしい」「顧客本位の業務運営」「顧客本位の業務運営と利益の両立、社員が成長できる環境づくり等の重要性を強調した。

最後に「代理店は未来に残る仕事」であり、「お客さまのさまざまな不安を少しでも解消したい」と真剣に取り組む代理店は必ず生き残る」「人は信頼できる人から保険に入った方が安心する」とし、今回の事業に対して「不満を言うのではなく、求められたことを確実にこなすことが重要。いずれ自分に戻ってくる」と呼びかけた。